

未来農業 DAYS



アワード部門

令和3年度農山漁村女性活躍表彰

農林水産大臣賞ほか



コンペ部門

第6回大地のカコンペ

賞金総額 100万円

2022年

3月17日(木)

12:00-16:10 (予定)

新型コロナの影響により
オンラインでの開催となります。

会場 オンライン開催

主催 未来農業 DAYS 実行委員会
農山漁村男女共同参画推進協議会
（社）未来農業創造研究会

後援 農林水産省

協賛

○令和3年度農山漁村女性活躍表彰
アイアグリ株式会社 / 一般社団法人全国農協観光協会
カネコ総業株式会社 / 株式会社カクイチ
株式会社ミズホ / 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
合同会社オクトリンク（五十音順）

○第6回大地のカコンペ
イーサポートリンク株式会社 / イオンアグリ創造株式会社
イオン九州株式会社 / 株式会社アグリインキュベーター
株式会社トール / 株式会社ミームデザインズ
住化農業資材株式会社 / 東京シティ青果株式会社
ネボン株式会社 / ヘルグアース株式会社
有限会社妙義ナバファーム（五十音順）

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

持続可能な社会の実現に向けて
農業分野で活躍する
女性や若者を応援します。

命をはぐくむお仕事なのです。



ご挨拶

主催者よりご挨拶



◆未来農業 DAYS 実行委員長◆

納口 るり子 氏

筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授 / (一社) 未来農業創造研究会 代表理事

●経歴●

1957年生 神奈川県小田原市出身。蜜柑農家の次女として誕生し、北海道大学農学部農業経済学科卒業。その後、農林水産省の試験研究機関（東京・つくば・新潟県上越市）で21年間、先進農業経営者の経営管理や農家間の組織化などについて研究を行う。

2000年から筑波大学にて、教育と研究に従事。

このたびは、未来農業 DAYS へご参加いただき、誠に有難うございます。本会は、農業の楽しさ・奥深さをご理解いただくための一つの取り組みとして開催するものです。これまでの農業界は、分かりにくい・排他的であるとみられることが多かったのですが、実際に農業に携わる方々は、それぞれ、農業を国民の皆様により深く理解して頂こうと、様々な取り組みをされています。食や農に関する話題が、マスコミ等を通じて、消費者の皆さまの目にふれることも多くなりました。近年、このように、国民の皆様の視線が、ようやく農業に向けられるようになったことを、感慨深く思います。

本会では、アワード部門として、第一線で活躍されている農業関係者の方々の顕彰、コンペ部門として、今後、農業を活性化されるであろう応募者の方々の発表と表彰、さらには第一線の農業関連事業者の基調講演を行います。

本日の未来農業 DAYS の開催により、農業と関連産業が、さらに輝かしい発展を遂げることを願っております。

令和3年度も新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの開催となりました。画面越しとはなりますが、本日のプログラムをご一緒にお楽しみいただき、農業の将来を展望して下さるよう、お願いをいたします。

未来農業 DAYS について

1. 新型コロナウイルスの影響によるオンライン開催について

新型コロナウイルスの影響により、未来農業 DAYS2022 はオンラインでの開催となります。発表者や受賞者には事前の録画や当日のオンライン接続などをご協力いただきました。会場での開催が叶わず残念ですが、皆様のご理解ご協力に感謝いたします。

2. 未来農業 DAYS とは

未来農業 DAYS とは、農業の未来を担う若手農業者や女性農業者の優れた取組を表彰、支援するとともに、農業に関心のある方々の革新的なアイデアに対し支援することで、未来農業の中心となる若者・女性の取組等を広く社会に発信することを目的としています。

6 回目となる今回は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインにて行われます。農業者と消費者を直接繋ぐ「食べチョク」代表の秋元里奈氏の基調講演から始まり、「令和3年度農山漁村女性活躍表彰」受賞者の取り組み事例紹介や、「第6回大地の力コンペ」のファイナルプレゼンテーションを行います。

未来農業 DAYS は、農業の「これまで」を知り「これから」を創造するための新しい仕掛けです。

3. 未来農業 DAYS 2022 タイムテーブル

11:30 ZOOM 開始（待機画面となります。）

12:00 開会のご挨拶

12:10 基調講演：食べチョク代表 秋元 里奈氏

13:00 コンペ部門：第6回大地の力コンペファイナリストプレゼンテーション

1 2年 生物生産科 果樹班（学生：青森県立柏木農業高等学校）

2 Roktrack（社会人）

3 島を救え農業で食品ロス0プラン（学生：長崎県立諫早農業高等学校）

4 Go → ON Farm（社会人：株式会社シュタインズ 農事業部）

5 COW飼う'S!!（学生：青森県立三本木農業恵拓高等学校 動物化学科）

6 みわかれふあーむ（社会人：丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム）

7 植物の高品質化に関する研究室（学生：京都府立桂高等学校 植物クリエイト科・園芸ビジネス科）

14:00 アワード部門：令和3年度農山漁村女性活躍表彰受賞者 取組事例紹介

1 齋藤 絹代 氏

2 みやぎアグリレディス21

3 穴井 里奈 氏

4 株式会社村上農園

5 宇佐川 美奈 氏

15:00 コンペ部門・アワード部門 表彰式

16:00 総括

16:10 閉会のご挨拶

基調講演



秋元 里奈 氏 食べチョク 代表

○経歴○

2016年11月に株式会社ビビットガーデンを創業。

2017年8月にオンライン直売所「食べチョク」を正式リリース。リリース3年で認知度/利用率 No.1 の産直通販サイトに成長。

2020年4月にアジアを代表する30歳未満の30人「Forbes 30 Under 30 Asia」に選出。

2020年9月にTBSの報道番組「Nスタ」の水曜レギュラーコメンテーターに就任。

その他、日本テレビ「スッキリ」コメンテーター、フジテレビ系列「セブンルール」、テレビ東京「カンスリア宮殿」など出演。

2021年2月に初著書『365日 #T シャツ起業家』を出版。

大地の力コンペ概要

1. 大地の力コンペが目指すもの

課題多き農業ではありますが、これまでも、そしてこれからも非常に重要であり、大きなパワーと魅力を持った産業であります。その力は現代社会を悩ませる問題を解きほぐることができるかもしれません。そのような、農業の力やそのフィールドを通してさまざまな社会課題の解決を目指す動きを「アグリ+(アグリプラス)」と名付けました。

大地の力コンペは「アグリ+アイデア」を表彰するとともに、未来に向かって大きくはばたくお手伝いをするを目的とします。

また、未来農業の中心となる若者・女性が活躍できる事業やアイデアにスポットをあてるとともに、異分野からの知恵も取り上げながら農業の裾野を広げることを目指します。

2. 第6回 大地の力コンペ テーマ

第6回テーマは「農業 x つくる責任つかう責任」です。今を生きるわたしたちは、地球環境を維持しながら次の世代へ引き継ぐ責務を負っています。一方で、より早く・より便利に・より快適にという欲求に抗いながらその責務を実行することはなかなか難しいものです。

環境の維持と社会の発展を両立すること。それが「持続可能な発展 - SDGs」のひとつの目標だといえます。環境との関わりが深い農業の世界でも SDGs への寄与が求められています。自然環境とは一見仲が良さそうな農業ですが、自然の恵みを享受しながら環境破壊の原因となっていることも事実です。

農業が環境破壊の原因になる理由の1つは、わたしたち消費者にあるかもしれません。きれいで新鮮な野菜・安全安心な食肉や卵・お財布に優しい「食」などを追求することが自身の首を締めることにつながっていることも。それらは「食品ロス」という大きな環境負荷につながっています。

「農業 x つくる責任つかう責任」というテーマには、大きく以下のような想いが込められています。

- ・農業そのものが環境によりやさしくなること
- ・農業の力を利用して環境をより良くすること
- ・わたしたち消費者が農業や食の現場でよりよい行動をおこなえること
- ・食品ロスなどの諸課題が解決に向かうこと

わたしたち自身と次世代に、よりよい環境を実現できるようなアイデアを募集します。

3. 募集内容

1. みんなが活躍：年齢や性別・国籍・文化・宗教・価値観・障がいの有無などに関わらず、誰もがそれぞれの個性を活かして活躍できる仕組みを作り、誰も置いてきぼりにならない社会をつくるアイデア
2. 命をつむぐ：食や農の分野で、持続可能な発展につながるアイデア
3. 地域を元気に：地産地消など、地域に根差した食文化や農業遺産を利用しながら、地域を活性化するアイデア
4. 環境を守る：つくる人・つかう人それぞれに責任がある環境問題。その諸問題を解決するアイデア。
5. 明日を創る教育：環境に配慮した消費行動をとれる消費者や、つくりてを育成するアイデア
6. パートナーシッス：異分野から、作り手である生産者の発展や環境に配慮した消費者育成につながるアプローチ
7. ミライの道具：作り手・使い手が、環境問題・食品ロスなどの諸問題に先端技術を用いて取り組むアイデア
8. そのほか：環境負荷や食品ロスなど、作り手と使い手の責任が問われる課題を解決に導くアイデア

4. 審査基準

社会的インパクト

農業だけではなく社会全体をより良くするものかどうか

革新性

これまでにないワクワクするようなアイデアであること

事業性

実現可能性があり、持続性があること

ファイナル審査員



納口 りり子 氏 一般社団法人 未来農業創造研究会 理事長 / 筑波大学大学院生命環境科学研究所 教授

●経歴●

1957年生まれ。神奈川県小田原市出身。蜜柑農家の次女として誕生し、北海道大学農学部農業経済学科卒業。その後、農林水産省の試験研究機関（東京・つくば・新潟県上越市）で21年間、先進農業経営者の経営管理や農家間の組織化などについて研究を行う。2000年から筑波大学にて、教育と研究に従事。



山田 敏之 氏 こと京都株式会社 代表取締役 / 公益財団法人 日本生産法人協会 理事

<https://kotokyoto.co.jp/>

●経歴●

1962年、京都府京都市生まれ。大阪学院大学商学部を卒業後、約8年のアパレル企業勤務を経て就農。2002年、有限会社竹田の子守唄を設立、のち2007年にこと京都株式会社に組織変更を行う。2014年にこと日本株式会社、15年にこと京野菜を設立。2017年6月より（公社）日本農業法人協会の5代目会長。日本食農連携機構理事、京都府農業経営者会議会長などを兼務する。著書に『脱サラ就農、九条ねぎで年商10億円』がある。平成30年度 農林水産祭天皇杯受賞。



藤井 滋生 氏 一般社団法人 未来農業創造研究会 副代表理事 / 株式会社アグリインキュベーター 代表取締役社長

<https://agriincubator.co.jp/>

●経歴●

1976年 宮崎大学農学部卒業、同、ジャスコ株式会社（現イオン株式会社）入社。イオンリテール株式会社取締役、関東カンパニー支社長、アグリカルチャーPT担当を経て2009年7月イオンアグリ創造株式会社を設立し代表取締役社長に就任。2014年 農産物生産・加工・流通のイノベーションの実現を目指し（株）アグリインキュベーターを設立。傍らで農業活性化のための勉強会「八重洲塾」を毎月開催。



福永 庸明 氏 イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長

<https://www.aeon.jp/agricreate/>

●経歴●

1969年 兵庫県出身。
1995年4月 ウエルマート株式会社（現マックスバリュ西日本株式会社）入社後、同農産商品部長を経て2009年7月にイオンアグリ創造株式会社 生産本部長兼管理本部長に就任。
2012年4月より、同社の代表取締役社長に就任。現在に至る。



及川 智正 氏 株式会社 農業総合研究所 代表取締役社長

<https://nousouken.co.jp>

●経歴●

昭和50年1月2日東京生まれ。1997年東京農業大学農学部経済学科卒業。
学生時代から農業への危機感を覚え、会社員を6年間経験後、農業界へ転身。自分で農業を3年、八百屋を1年実践し、その経験を活かし、2007年に現金50万円で農業総合研究所を設立。起業後10年で取扱高70億円を達成。平成28年東証マザーズへ上場。多数のメディア出演や講演活動、農林水産省の委員、大学の講師も務める。農業界の急成長企業、そして、農業ベンチャー初の上場企業として全国から注目を浴びている。趣味はタッスダンス。



西辻 一真 氏 株式会社マイファーム代表取締役社長 / 農（みのり）の学校校長

<http://myfarm.co.jp>

●経歴●

1982年福井県生。2006年京都大学農学部卒業。2007年株式会社マイファーム創業。
2010年農林水産省政策審議委員就任。2014年内閣府国家戦略特区農業特区委員就任。
幼少期から農業が好きだった、という想いのまま、世界中の耕作放棄地が無くなり、皆が農業を楽しめる社会になってほしいと会社を設立。自産自消の理念を掲げ、体験農園事業、アグリイノベーション大学事業、流通事業、農家レストラン事業、農産物生産事業など農業に関する多様で、新しい仕組みを産み出している。

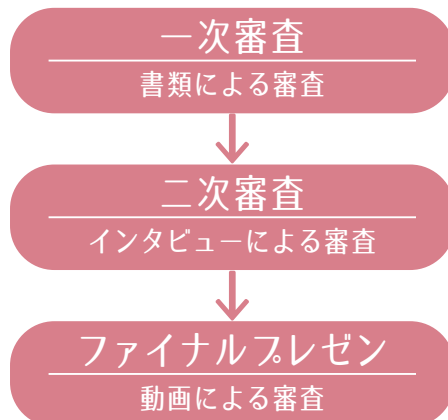
ファイナリスト紹介

第6回大地の力コンペファイナリスト

今回のファイナリストは学生4組・社会人3組の全7組。エントリーシートによる一次審査・オンラインでの二次審査インタビューを基に厳選な審査を経て決定いたしました。本年度のテーマ「農業 x つくる責任・使う責任」に対して、想像を超える多方面からの考察や広い視点からのアイデアが集まりました。

各ファイナリストはテーマを一般的なものとはとらず、身近な社会課題の解決に果敢に挑戦するとともに、より大きな課題解決へとつながる道筋を提案しています。

環境負荷の軽減や農業の持続性の糸口となりえるファイナリストたちのプレゼンテーション。ぜひ楽しんでご覧ください。



フェザー苗木の育成によるリンゴの高密度植栽培の普及を目指して



H G.A.P. (えいち ぎゃっぷ)

青森県立柏木農業高等学校

●エントリー内容●

青森県におけるリンゴの生産量は全国1位であるが、様々な理由でその生産量は減少傾向にある。理由の1つに農業従事者の高齢化・担い手不足がある。背景として、高所作業の危険性や生産効率の低下、収入の安定に数年要するなどが挙げられる。その解決策の一つが、高密度植栽培の「フェザー苗木」の導入だが、生産量が限られるために普及しない現状がある。本案では農業高校でフェザー苗木の生産と普及を進める取り組みを提案する。

荒れ地対応自律型ロボット草刈り機「Roktrack Mower」



Roktrack

社会人

●エントリー内容●

日本各地の中山間地で雑草の生い茂る荒れ地が増えている。危険かつ重労働、高頻度で除草を続ける必要があるため、今後も荒れ地は増えていくことが予想され、景観は悪くなり土地の利用用途は制限されていく。本アイデアでは電源のない土地であってもスイッチを入れるだけで範囲内を自律的に草を刈るロボットと人工衛星画像解析により、草の刈り時をお知らせするサービスを提案する。これにより誰でも簡単・安全・持続的に土地管理をすることができるようになる。

離島から発生する食品廃棄物を農業に利用した食品ロス0ミッション



島を救え 農業で食品ロス0プラン

長崎県立諫早農業高等学校

●エントリー内容●

長崎県対馬は、自然豊かな島ですが、食品など多くの物資を島外からの輸送に依存しています。その一方、各家庭から排出される食品残渣など生ゴミの処理費用に約3800万円の費用を要しているのが現状です。そこで対馬市環境政策課と連携し、この食品残渣を農業の力で資源として活用し、「燃やす」から「活かす」に変え食品残渣の堆肥化や家畜飼料25%削減が可能となりました。この活動は「カーボンニュートラル」から発想を得た「フードロスニュートラル」を目指したものです。

伝統野菜「食用菊」で繋ぐ地域循環共生社会と伝統食文化の継承



Go → ON Farm

株式会社シュタインズ 農事業部 <https://goonfarm.jimdofree.com>

●エントリー内容●

青森県南部地方の伝統野菜「食用菊」。昨今、農家の担い手不足・菊の需要減少により、年々生産者も減少、伝統文化が途絶えつつある。そこで、食用菊の文化を再生すべく新たな価値を創出。魅力ある商品開発や、耕作放棄地を利活用し街中菊畑化、観光資源にも寄与。また、ユニバーサル農業を実践することでだれもが平等に働ける場を創出。食用菊を中心に、農業課題に取り組み、地域をつなぎ、「菊どころ、はちのへ」の文化を取り戻し、次世代に継承していく。

LIVE STOCK NEW REVOLUTION ～畜産後継者の新革命～



COW 飼う'S

青森県立三本木農業恵拓高等学校 動物化学科

●エントリー内容●

私達は、家業で牛を飼育している畜産業の後継者です。動物科学科で産業動物の研究を行っている研究班では、エコフィードと飼料添加剤について研究を行っています。鶏には卵の機能性成分向上を目的に、フードロスの観点から廃棄ニンジンエコフィードとして活用、黒毛和牛には脂肪中のオレイン酸割合を高めるために高オレイン酸ヒマワリ種子を餌として給与する研究を行っています。十和田市内の耕作放棄地でヒマワリ栽培を行うことで、景観改善と飼料生産の両立を目指すアイデアになっています。

水の博物館が有機農業の体験教室を実施。未来の農業者育成に挑戦！



みわかれふあーむ～水分れ最初の一滴から畑を作ろう～

丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアム

●エントリー内容●

本企画は、降った雨が北か南のどちらに流れていくのかを決定する「分水界」のある兵庫県丹波市で行いました。丹波市の分水界は本州一低いことで有名であり、その場所は「水分れ(みわかれ)」と呼ばれています。その水分れの耕作放棄地(約10a)を借り、「みわかれふあーむ」として開墾し、「農の学校」と連携し、未来の農業後継者育成として、地域の子供達に農業体験教室を開催しました。農業体験教室は有機農法を学び、種まきから収穫まで、全6回実施しました。

梅酢を用いて生産する高糖度トマト「梅えトマト」のブランド化



植物の高品質化に関する研究室

京都府立桂高等学校 植物クリエイト科・園芸ビジネス科

●エントリー内容●

廃棄物として処理されてきた梅酢を用いて、塩類ストレスをかけ高糖度トマト栽培に挑戦してきた。未利用資源である梅酢で高糖度トマトを生産し、ブランド化ができれば、関連産業にとっても有益に働き、新たな雇用の創出が可能となる。環境負荷、労働生産性の向上と継続的に高糖度トマトを生産するために、単為結果性品種の導入によりホルモン剤処理、セイヨウオオマルハナバチの利用を止め、循環型高設ベンチを用い安定的で高品質なトマト生産への試みを検討している。

令和3年度農山漁村女性活躍表彰

1. 目的

農林水産業に従事する女性は、農山漁村を支え、農山漁村生活の充実と6次産業化をはじめとした地域経済の活性化に重要な役割を果たしており、その能力が一層発揮されるよう支援していくことが必要です。

また、女性の役割の重要性が高まっている中、地域社会や農林水産業経営や政策・方針決定過程への女性の参画状況、関係組織への登用状況は、いまだ十分でないことから、さらなる参画の拡大を促進するとともに、女性農林水産業経営者の能力を最大限に活かし活躍してもらえるよう環境を整備し、次世代リーダーとして農山漁村を引っ張る女性を増やしていくことを通じ、農林水産業の発展を図ることが必要です。

このため、農林水産業及び農山漁村の活性化や農林水産業経営や政策・方針決定への女性の参画推進、次世代リーダーとなりうる若手女性の農林水産業への参入など女性活躍推進のために積極的に活動している個人又は団体を表彰することにより、女性が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりの推進に資するものとしします。

2. 受賞個人・団体一覧

A：女性地域社会参画部門（個人） B：女性地域社会参画部門（組織） C：女性起業・新規事業開拓部門
D：女性活躍経営体部門 E：若手女性チャレンジ部門 F：地域子育て支援部門

賞の種類	賞の名称	部門	県名	所在地	個人または団体名
 最優秀賞	農林水産大臣賞	A	群馬県	高崎市	齋藤 絹代
	農林水産大臣賞	B	宮城県	仙台市	みやぎアグリレディス21
	農林水産大臣賞	C	熊本県	南小国町	穴井 里奈
	農林水産大臣賞	D	大分県	大分市	株式会社村上農園
	農林水産大臣賞	E	福岡県	久留米市	宇佐川 美奈
 優秀賞	経営局長賞	A	岡山県	岡山市	板野 真理枝
	経営局長賞	B	大分県	竹田市	有限会社 エム・ナイン
	経営局長賞	C	千葉県	市原市	山崎 美佐江
	経営局長賞	D	茨城県	河内町	株式会社ゲスラナガトヨ
	経営局長賞	E	岡山県	津山市	鈴木 妃奈
	林野庁長官賞	B	和歌山県	—	和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会
	水産庁長官賞	E	鹿児島県	屋久島町	川東 繭右
 優良賞	全国農業協同組合 中央会長賞	A	岩手県	盛岡市	松本 直子
	全国漁業協同組合連合 会長賞	B	岩手県	洋野町	種市南漁業協同組合 宿戸女性部
	農山漁村男女共同参画 推進協議会会長賞	A	富山県	小矢部市	田悟 敏子
		B	愛媛県	内子町	内子アグリベンチャー21
		C	群馬県	前橋市	矢端 晴美
E		北海道	広尾町	角倉 円佳	

審査員



◆審査員長◆

岩崎 由美子 氏 福島大学行政政策学類 教授

●経歴●

埼玉県生まれ。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。住民主体の計画づくり、農山村地域活性化、農村女性起業、震災からの地域復興などを研究。主な著書として、『〈食といのち〉をひらく女性たち』（農文協、共著）、『食と農でつなぐ 福島から』（岩波書店、共著）、『小さな自治体の大きな挑戦－飯舘村における地域づくり』（八潮社、共著）、『女性の参画と農業・農村の活性化』（全国農業会議所）、『成功する農村女性起業』（家の光協会、共編著）など。



納口 るり子

氏 筑波大学大学院生命環境科学研究科 教授 / 一般社団法人 未来農業創造研究会 代表理事

●経歴●

1957年生 神奈川県小田原市出身。蜜柑農家の次女として誕生し、北海道大学農学部農業経済学科卒業。その後、農林水産省の試験研究機関（東京・つくば・新潟県上越市）で21年間、先進農業経営者の経営管理や農家間の組織化などについて研究を行う。2000年から筑波大学にて、教育と研究に従事。



五條 満義

氏 東京農業大学国際食農科学科 准教授

●経歴●

全国農業会議所に8年間勤務後、1997年々に東京農業大学専任講師、2003年に助教授、2007年から准教授。国の第2次・第3次・第4次の「男女共同参画基本計画」の策定作業をめくり、内閣府男女共同参画会議専門委員を務めた。

著書に『家族経営協定の展開』（筑波書房・2003年）、『中国の大学と農村は今』（東京農大出版会・2008年）、『家族経営協定 最前線』（全国農業会議所・2010年）などがある。



小川 理恵

氏 一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）主席研究員

●経歴●

一般社団法人日本協同組合連携機構（JCA）基礎研究部 主席研究員。1997年に、前身である社団法人地域社会計画センターに入会。総務課長、企画調整室長を経て研究職に職種転換、現在に至る。研究分野は地域づくりと女性活動。

主な著書に『魅力ある地域を興す女性たち』（農文協、2014年）、『JA女性組織の未来 躍動へのグランドデザイン』（共著、家の光協会、2021年）、『事例から学ぶ 組合員と進めるJA自己改革』（共著、家の光協会、2018年）他。



平田 真一

氏 有限会社 平田観光農園 代表取締役 / 農のふれあい交流経営者協会 会長

●経歴●

1965年8月長野県生まれ。広島大学法学部卒業後、落合経営会計事務所に入社。その後、有限会社平田観光農園に就職。2006年7月に同取締役社長に就任、川西地区果実共同加工組合代表就任。2010年7月に長野県中野市に、株式会社果実企画を設立、取締役就任。2016年12月に株式会社イチコト設立、取締役に就任。2020年4月に川西地区果実共同加工株式会社を設立、取締役に就任（すべて現任）全国農業会議所が事務局を務める経営者組織「農のふれあい交流経営者協会」会長。



安形 京子

氏 (一社)全国農業経営コンサルタント協会 理事 / 安形税務会計事務所 税理士・行政書士

●経歴●

福島県会津生まれ。当初名古屋市の社会福祉施設に勤務。その後養豚農家に嫁ぎ農業の現状を知る。会計事務所勤務後1995年安形税務会計事務所を設立。最初から農家の応援を使命と位置づけ愛知県農業経営改善支援センタースペシャリストに登録。県の農業改良普及所、市の農政課、JA関係等からの依頼で会計及び税務の講師として従事。農業関係の会計士の組織である(社)全農協に入会し農業簿記検定試験立上げメンバーに加わり、教科書作りや試験委員にて活動。日本政策金融公庫農業経営アドバイザー上級試験合格、食Pro.取得、FP、経営革新等支援機関認定。現在は愛知県農業経営相談所専門家に登録し、様々な農業経営者の相談にのりながら、日頃は税理士・行政書士事務所の経営に従事する。

受賞者

令和3年度 農山漁村女性活躍表彰では、以下の6部門を表彰いたします。

A. 女性地域社会参画部門（個人）

農山漁村の女性が中心となった地域の農林水産業の振興及び農山漁村の活性化活動等を中長期に渡り積極的に実施している個人の取組。

B. 女性地域社会参画部門（組織）

農山漁村の女性が中心となった地域の農林水産業の振興及び農山漁村の活性化活動等を中長期に渡り積極的に実施している組織・団体等の取組。

C. 女性起業・新規事業開拓部門

女性ならではのアイデア等に基づき新規事業・部門等を設立し概ね5年以内に経営上の成果を上げている取組。

D. 女性活躍経営体部門

女性が働きやすい環境整備に取り組むとともに経営方針等に女性が参画し、実践している概ね5年以内の農林水産業を営む経営体の取組等。

E. 若手女性チャレンジ部門

今後地域の農林漁業の発展を担い、リードすることが期待される概ね「若手女性」が実施する概ね5年以内の取組。

F. 地域子育て支援部門

農山漁村の特色・課題を踏まえた地域の子育て支援、児童・学童の健全な育成に資する取組。

👑 農林水産大臣賞 A. 女性地域社会参画部門（個人）



齋藤 絹代 （群馬県 高崎市）

平成元年、義父母から経営移譲を受け、脱サラした夫とともに後継者として就農。平成8年から、学校への野菜の提供や、近隣小学校の社会科見学の受け入れなど、食農教育活動を実施。平成10年に直売所「柴崎農園」を開設し、現在はECサイトも活用して販売。消費者が求める農産物を提供したいとの思いは強く、確かな品質はリピーターの獲得に繋がっている。地域の「食」を支え、地域受け入れられる農園づくりに尽力。農業委員、食育推進会議、県農政審議会や観光審議会など、様々な分野の委員を務め、積極的に意見を発信。女性の地域社会参画の推進に大きな役割を果たしてきた。

👑 農林水産大臣賞 B. 女性地域社会参画部門（組織）



みやぎアグリレディス21 （宮城県 仙台市）

平成14年3月に設立。当初から、女性の農業委員の登用促進を重点活動に据え、活動。改正農業委員会法施行後2回目の改選（令和元年度～令和3年）に際し、農業委員会を設置する県内全34の市町村長、市町村議会議長に対して、（一社）宮城県農業会議と連名による要請活動を行い、あわせて、市町村農業委員会会長に対しても要請活動と、市町村長、市町村議会議長に対する要請への同席を求め懇談を行ってきた。令和3年7月に、本県では改選が全て終了し、この時点での会員数は103名で、女性の農業委員の登用率は18.8%。県内全ての市町村農業委員会に女性の農業委員が登用され、第5次男女共同参画基本計画の成果目標である、女性農業委員のいない農業委員会をゼロにする目標を達成した。

👑 農林水産大臣賞 C. 女性起業・新規事業開拓部門



穴井 里奈 （熊本県 南小国町）

2011年、結婚を機に移住。小国杉の歴史や魅力から、小国杉をもっと広めたいと、2016年、株式会社Forequeを設立。端材を使った雑貨や、生活用品の企画・製作を始める。2020年に、県の木育インストラクターの資格を取得、町内の保育園や学校で、体験イベントを開催。また、エッセンシャルオイル事業では、放置されていた枝葉を林業家から買い取り、抽出後の残物も、土づくりや熱エネルギーとして再利用、廃棄物ゼロに努める。地元の中学校に、国内初となる「林業×プログラミング」をテーマにした部活動を提案、運営。2017年から、ライフスタイルブランドFILを立ち上げ、木製品やアロマ製品を企画。木材の可能性や魅力を国内外に発信、地域の林業、観光業の活性化にもつながっている。

農林水産大臣賞 D 女性活躍経営体部門



株式会社 村上農園 (大分県 大分市)

昭和60年、現代表の父がニラ生産を専業で開始、平成23年4月に法人を設立。令和3年に枝里氏が代表取締役役に就任。出荷・調整作業を担う若手の女性パート従業員確保のため、子育て中の女性が働きやすいように労働条件の改善と環境整備を行い、雇用の安定化が実現。経営面積も順調に規模拡大している。また、女性従業員自らが創意工夫で仕事を行える仕組みにより、従業員のやりがい向上、自ら考えて働く従業員を育成することができている。新たな生産技術の確立や機械化による業務の効率化など、産地へのけん引役としても地域へ貢献しており、地域の荒廃農地の無償整地、福祉施設への調整作業の委託や障がい者雇用等の農福連携にも積極的に取り組んでいる。

農林水産大臣賞 E 若手女性チャレンジ部門



宇佐川 美奈 (福岡県 久留米市)

花農家の義父から勧められ、平成24年にJAのリーフレタス部会に入り、60aから栽培を開始、新規就農者となった。面積を順調に拡大し、平成27年には夫も就農。平成28年から、パートの雇用も開始。出勤人数に合わせて仕事内容を決める等、子育て中の従業員が働きやすい環境づくりに取り組む。一方通年雇用に向けた作業環境改善のために、キクラゲ栽培を開始。パート2名が正規職員になり、外国人技能実習生の受け入れも行うなど、リーフレタスの栽培面積は10haまで増加。平成30年、久留米市の若手女性農業者グループ「美農女くるめ」を結成、同世代の農業者との交流、地元の子供との野菜教室など食農教育活動にも取り組んでいる。

経営局長賞 A 女性地域社会参画部門 (個人)



板野 眞理枝 (岡山県 岡山市)

昭和57年、非農家からメロン農家に嫁ぎ、就農。燃油高騰を受け、平成15年に冬季のメロン栽培に替えスフレウラムを導入。良品安定生産技術の確立と部会員の技術向上に尽力し、作付面積全国3位(令和2年)のスフレ産地確立の一翼を担ってきた。花き部会役員に就任してからは、東京市場や食育花育を通じた地元への産地PR、新規栽培者の巡回指導など、産地振興に取り組む。ミセスコスモスや岡山市女性農業士など女性農業者の会で得た知識や経験を活かし、自らは家族経営協定を締結して経営参画を実践するとともに、女性農業者の積極的な地域社会参画をアドバイスしてきた。平成30年4月から岡山県農業士に就任、広く農業後継者の育成活動等にも注力している。

経営局長賞 B 女性地域社会参画部門 (組織)



有限会社 エム・ナイン (大分県 竹田市)

トマト農家の女性が規格外品を使用した加工品の製造販売を目的に起業したグループ。平成14年法人化。開発したケチャップが高い評価を受けたことから、原料調達安定化のため、JAと連携して規格外品を使用。生産農家の所得向上や、後継者や新規就農者が育つなど、高齢化が進む中で産地面積を維持、出荷量、販売額も増加傾向にある。高い品質の加工品は、トマト産地のブランドアピールの一役を担う。また、消費者との交流、地元小中学生や農業大学生の視察・研修の受け入れや、トマト料理の講師派遣等もっており、生産農家が6次産業化に取り組み、成功したモデル的起業グループであり、農山漁村女性の積極的な起業・経営参画を後押しするリーダー的存在。

👑 経営局長賞 C. 女性起業・新規事業開拓部門



山崎 美佐江 (千葉県 市原市)

夫の脱サラによる就農を機に本格的に農業に携わり、「保存料や着色料などの食品添加物を使わない商品づくり」をモットーとした農業経営を展開、規模拡大を図ってきた。地域産物を活用した商品開発や体験交流部門の立ち上げ、農家レストラン、直売所の開設、後継者のイチゴ栽培と次々に事業を創設し、里山ファームのファンづくりや農業の魅力の理解醸成に努め、地域農業の活性化に大きく貢献している。夫婦で県指導農業士に認証され、農業委員、県の男女共同参画懇話会委員としても活躍。新型コロナウイルスや自然災害のリスクの中でも、地域密着型の直売所を建設、地元生産者や新規参入者の販路を確保するなど地域農業を支えるリーダーとして活躍の場を広げている。

👑 経営局長賞 D. 女性活躍経営体部門



株式会社ゲフナガトヨ (茨城県 河内町)

鉢花やポット苗の育種・生産・販売を行う。年間売上は、161,006千円(過去5年間の平均)。花の育種や選抜に力を入れ、常に消費者目線に立った商品開発に努める。通年で安定した商品供給をするため、2006年から長野県に支店を設け、気候に合わせた花の生産に取り組む。経営計画等に現場の従業員等女性の意見が反映される体制を整えており、商品開発の段階から積極的に女性を参画させることで、女性好みの淡い色合いの花を生産。消費者や販売店から高い評価を得ている。女性従業員が活躍できる環境を整え、働きやすく、活躍しやすい体制作りに取り組んでいる。また、地元の農業経営士、女性農業士の視察の受け入れなど、地域の農業者の育成にも貢献している。

👑 経営局長賞 E. 若手女性チャレンジ部門



鈴木 妃奈 (岡山県 津山市)

平成22年、いちご栽培で農外から新規参入。自らの経営の傍ら、(有)まほらの運営する農園の従業員としても活動。前社長の死去により、代表取締役役に就任。果物狩り品目の拡大、6次化産品・加工品の開発、イベントの実施、カフェの開設等さまざまな事業に取り組み、農業振興拠点としての農園の発展に尽力。併せて女性従業員が働きやすい環境づくりも進める。また、若手女性組織「あぐり女史の会」に参画し、知識向上・地域活性化に向けた研修会や活動を行う(平成30年から3年間会長)。保育園から社会人まで幅広く農業体験の受入を行い、食農教育実践の場を提供。県の就農研修事業による研修生を受け入れ、新規就農者確保・育成も積極的に進め、農福連携の取組も行う。

👑 林野庁長官賞 B. 女性地域社会参画部門(組織)



和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会 (和歌山県)

平成11年3月設立。地域で森林や林業をPRしたいと、平成15年度からヒノキ間伐材を使用したマグネットづくり体験指導を開始。和歌山の「木」の良さを広めている。平成21年度から小学校等での森林・林業教室を開始。平成26年度からは、高校生への授業も行う。座学の他、会員所有林での間伐体験や、経営者や従事者の話を聞くなど、将来の職業選択に活かしてもらう機会となっている。平成27年度、紀の国わかやま国体において、森林・林業・木材に関する広報を関係団体に呼びかけ、展示の他、来場者に手作りのかんなりボンストラップを無償配布。女性ならではの視点や発想で、「木」や森林、山の魅力の発信に継続的に取り組んでいる。

水産庁長官賞 E. 若手女性チャレンジ部門



川東 繭右 (鹿児島県 屋久島町)

他業種で働きながら釣行モデルとして活動中、屋久島の魚に魅了され平成 23 年移住。その後、一本釣りの漁業者と結婚。島でも魚食離れが進んでいる状況を知り、平成 26 年から魚食普及活動を開始。平成 30 年 11 月から、地魚を使ったケータリングや弁当の販売、鮮魚販売仲介業務、魚食普及活動業務を受託する個人事業主として「屋久島いお結び」を開業。育児の傍ら、地元の祭りで鮮魚販売や地魚解体ショーを開催、小・中学生を対象とした地魚料理教室、レシピ開発など奮闘。平成 28 年水産庁長官から「お魚かたりべ」に任命される。魚離れが顕著な若い主婦、子育て層向けに「時短」、「手間なし」をキーワードにしたレシピブックを、県、市町、漁協とともに作成。令和 3 年 8 月、鹿児島県指導漁業士に任命された。

全国農業協同組合中央会長賞 A. 女性地域社会参画部門 (個人)



松本 直子 (岩手県 盛岡市)

非農家出身。昭和 61 年、果樹専業農家の長男と結婚、就農。新たな品目としてブルーベリーを導入後、女性農業者グループ「藍の会」を立ち上げ、産地シンポジウムを成功に導くなど、地域のブルーベリー振興に尽力。平成 4 年から地元保育園、小中学生の体験学習、高校生や農業大学校生の研修受入など、長年、食農教育に取り組む。また、農園カフェでは、地域農業の現状や農村風景を維持する取組など、広く情報を発信。自家農園を活用した地域交流イベント「りんご畑 de コンサート」は、平成 11 年から 9 回を数え農業や地域の魅力を再発見する機会となっている。地元企業との連携による当地商品の開発など、「盛岡りんご」のさらなる認知度向上にも尽力。

全国漁業協同組合連合会長賞 B. 女性地域社会参画部門 (組織)



種市南漁業協同組合 宿戸女性部 (岩手県 洋野町)

昭和 34 年結成。平成 17 年度から宿戸地区では、地元の小・中学生を対象の体験学習に取り組み、地域ぐるみで担い手育成を行っている。女性部は、主に中学生を対象に、漁獲→加工→販売までの一連の作業の体験学習で、収入につながる楽しさも知ってもらう等、工夫を凝らす。生徒の中から、これまでに 5 人が当地区の漁業者として活躍。また、JF 種市南では、一家族に複数の人が正組員資格を持つことを積極的に進めており、令和 2 年度及び令和 3 年度には若い女性 3 人が女性漁業者としてデビュー、正組員となって活躍、女性漁業士も新たに 2 人誕生した。地区の担い手活動と女性部活動を調和させ、女性漁業者の収入確保と働きやすい環境づくりへの努力を漁協と共に取り組んでいる。

農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞 A. 女性地域社会参画部門 (個人)



田悟 敏子 (富山県 小矢部市)

平成 14 年小矢部市で初めて家族経営協定を締結、夫との共同申請により、「認定農業者」に認定され、以降、家族経営協定が 10 戸で締結された。市初の女性の農業委員を務め、令和 2 年からは富山県女性農業委員の会会長を務める。郷土料理「にしんの糶漬」を商品化、当該商品は、令和 2 年からふるさと納税制度の返礼品となる。平成 19 年から県の「とやま食の匠」、平成 26 年から「富山県食育リーダー」等を務め、食農教育や郷土料理の伝承に貢献。女子高校生と小矢部の食材を活かした「生キャラメル」の開発や、食にかかわる異業種グループ「メルきゅん女子」でりんごやかきもちなどを使った「農産物パフェ」の開発など、若い世代への地域農業・農産物の PR、活性化に貢献。

農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞 B. 女性地域社会参画部門（組織）



内子アグリベンチャー21（愛媛県 内子町）

平成13年2月に結成。町が農畜産物処理加工施設を直売所内に新たに整備した際、施設の運営と農産加工品の研究開発を行う主体として発足。メンバーは、直売所に出荷する生産者で、地元農産物を使った新しい農産加工品の開発と、製造販売、飲食店の経営等複合的なアグリビジネスを展開。安全、安心、健康をモットーに開発研究した商品は好評を得、特に、「もち麦うどん」、特産の柿の「柿ようかん」は人気商品として定着。町の新規作物「じゃばら」の加工食品の研究開発にも力を入れ、知名度アップに貢献。設立当時約890万円であった売上額は、令和2年約2370万円と成長。「勇気・やる気・元気」を合言葉にした活動は、地域での女性の経済的自立や活性化に寄与している。

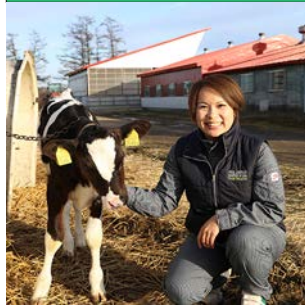
農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞 C. 女性起業・新規事業開拓部門



矢端 晴美（群馬県 前橋市）

非農家出身、昭和60年結婚を機に就農。昭和63年から日本語教師の仕事再開、農業と両立させている。平成5年に特別栽培米制度を利用した直接販売を契機に積極的に経営参画。平成15年に法人化し取締役就任、消費者交流・情報発信に取り組む。平成18年から通年雇用と経営安定を図るため、餅の製造販売部門を立ち上げ6次産業化に着手。100%自家製の餅米を使った餅は経営の一つの柱へと成長。平成24年に6次産業化認定事業者の認定を受けるとともに、市の農産物ブランド認定を取得。組織活動にも積極的に取り組み、役職を歴任し地域リーダーとして活躍。郷土料理の技術伝承、地産地消、体験学習や食育活動にも積極的に取り組み、農業の魅力発信、理解促進に貢献している。

農山漁村男女共同参画推進協議会会長賞 E. 若手女性チャレンジ部門



角倉 円佳（北海道 広尾町）

酪農家に生まれる。大学卒業後2年間、カナダの牧場で実習し、女性による牧場マネジメントを体験。帰国後平成19年に株式会社マドリンを設立。搾乳頭数30頭で経営を開始、現在は、経産牛頭数約60頭、年間出荷乳量およそ680トンを生産。一人で経営を始めた際の閉塞感や情報収集のしさになどの経験から、酪農女性が新たな情報を学び、仲間と情報交換できる場を主催。全国的なネットワーク活動にも取り組み、酪農女性の経営参画の推進や地域農業の活性化に努める。また、ラジオパーソナリティーとして、農業界だけではなく、地域や都市に向けて酪農の意義を伝える活動も行っている。広尾町の農政推進協議会の組織員、北海道農業士、食料・農業・農村政策審議会委員。

農山漁村女性活躍表彰 講評



審査員長 岩崎 由美子 氏

今年度の農山漁村女性活躍表彰には、25道府県から36事例の応募がありました。厳正な審査の結果、大臣賞に5名の方が選ばれました。

以下、簡単ではありますが、大臣賞受賞者の講評をいたします。

A. 女性地域社会参画部門(個人の部)では、群馬県の齋藤絹代さんが受賞されました。齋藤さんは、顔の見える農産物販売に関心を持つようになり、直売所の開設や食農教育に取り組むようになり、農業者自身が農業の大切さを発信することにより、農業に興味を向け、買い支えてくれる消費者を育てていかなければいけないという思いから、積極的な活動が展開されました。農業委員、JA 理事などにも就任され、女性の地域社会参画の推進に大きな役割を果たされています。

B. 女性地域社会参画部門(組織の部)では、みやぎアグリレディス21(宮城県)が受賞されました。同会は、2002年(平成14年)に設立され、今年で20周年を迎えます。女性の農業委員の登用促進を重点活動に据え、「地域において、女性委員が、自分たちで出来ることから活動を展開していくこと」、「農業委員会女性委員は、身近で頼られる存在であること」、そして「女性委員の存在意義を、みやぎアグリレディス21の活動実績で示していくこと」をモットーとして様々な活動に取り組み、女性農業委員のいない農業委員会をゼロにするという目標を達成されました。

C. 女性起業・新規事業開拓部門では、熊本県の穴井里奈さんが受賞されました。穴井さんは、熊本県南小国町の地域資源である小国杉を使った雑貨や、生活用品の企画・製作を始めます。プログラミングやレーザーカッター等の新技術を用いた木材の商品化やアロマ等の製品開発は、これまで男性の仕事とされてきた林業に女性が参入・活躍する新たな道筋を示すものであり、さらに自社ブランドをグローバルスケールで発信する力強い取り組みを展開されています。

D. 女性活躍経営体部門では、大分県の株式会社村上農園が受賞されました。ニラ生産を行う同社では、村上枝里さんが代表取締役役に就任し、子育て中の女性が働きやすいように労働条件の改善と環境整備を行うことで、雇用の安定化を実現させます。順調に規模拡大を果たし、産地のけん引役としても貢献され、さらに、障がい者雇用等の農福連携にも積極的に取り組んでいる点が高く評価されました。

E. 若手女性チャレンジ部門は、福岡県の宇佐川美奈さんが受賞されました。宇佐川さんは、リーフレタスの栽培を60aから開始し、認定新規就農者となります。その後、規模拡大を果たし、やがて夫も就農し、雇用者も入れるまでになりました。子育て中の従業員が働きやすい環境づくりに取り組んだ結果、リーフレタスの栽培面積は10haまでに増加しました。また、女性グループを結成して食農教育にも取り組むなど、若手女性経営者のロールモデルとして活躍されています。

さて、最後に、農村の女性参画の歩みを振り返ると、1999年が節目の年とよく言われます。この年には、食料・農業・農村基本法が成立し、その第26条で「女性の参画の促進」が規定され、同年成立した男女共同参画社会基本法とともに注目を浴びました。この法改正の基礎となったのは、その7年前の1992年に、農水省で策定された「農山漁村の女性に関する中長期ビジョン」という行動計画です。そのビジョンで描かれた「めざそうとする女性の姿」とは、「自分の生き方を自由に選択し、自分の人生を自身で設計し、その結果、自信と充実感を持って暮らしている」女性というものでした。ビジョン策定から30年近くたった今、皆さんの地域で、そのような女性は増えているでしょうか。今日受賞された皆さんはまさにそれを体現している方々だと思いますが、一方で、現在もお様々課題が残っているのは事実です。

しかしながら、例えば先ほどご紹介した「みやぎアグリレディス21」には、私は結成2年目頃に初めて伺ったのですが、当時は女性農業委員が10名不足しかいませんでした。それから活動を積み重ねた結果、今では100名を越える女性農業委員が地域で活躍しています。彼女たちの取り組みからは、あきらめずに、「変えられないと思っていたことを変えてきた希望」が感じられます。

かけがえのない農業・農村を次世代につないでいくためにも、皆さんの経験や思いをぜひ地域社会や都市住民に広く発信していただければと思います。皆さんの今後のますますのご活躍を心より祈念し、審査講評とさせていただきます。ありがとうございました。

実行委員会

農山漁村男女共同参画推進協議会

NCA 一般社団法人全国農業会議所
National Chamber of Agriculture

農山漁村の女性は、農林水産業の維持・発展や地域社会の活性化に大きく貢献しています。しかし、農山漁村における政策・方針決定の過程への女性の参画の現状は依然として不十分であり、また、経営においても働きに応じた経済的評価や就業条件、経営上の地位の確立が進みつつあるもののまだ充分であるとは言えません。更に、自らの意志による起業ビジネスの展開や仕事と子育ての両立、ワーク・ライフ・バランスのとれた暮らし方などの観点からも課題が山積しております。

このような中、食料・農業・農村基本法及び男女共同参画社会基本法が制定されて10年を経た今、一層の社会参画、経営参画の推進が求められております。

また、昨今の厳しい経済状況の下で、仕事と生活の場が密接に関わる農山漁村での暮らしの豊かさが実感できるようにしていくことが、充実したシニアライフや若い世代が農業を仕事と選び農山漁村に定着していく上で重要であり、それらのベースとなるのが、農山漁村における男女共同参画社会の実現であります。そこで、農山漁村の男女共同参画に関係する全国団体からなる「農山漁村男女共同参画推進協議会」を設立し、現状と問題認識の共有・解決に向けた展開方向・具体的な活動内容・男女共同参画に関する人的ネットワークの強化等について、統一的にあるいは分担して取り組むため、関係者の総意のもと、「農山漁村男女共同参画推進協議会」は設立されました。(平成22年2月8日 設立趣旨書より)

一般社団法人 未来農業創造研究会



日本の黎明期から現代まで、長きにわたり私たちの生命を支えてきた日本農業。近代においても、戦前戦後とそれに続く高度経済成長期の土台となってきました。その日本農業が今、様々な要因のもとで大きな転換を迫られています。需要の低迷・担い手の不在・頭打ちの販売価格・進まない大規模化などなど。加えて TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）という大きな波が打ち寄せようとしています。

そんな多くの課題の日本の農業ですが、その必要性は常に変わることなく存在し、今後も高度かつ持続的に発展してゆかなければなりません。これまで以上の高い生産性一量と質、両方の確保一を実現させるため、大きな「進化」が求められています。

新しい未来農業を創造する担い手、その一端は確実に女性が負ってゆくでしょう。日本農業のこれまでのパラダイムを動かす女性たち。わたしたち未来農業創造研究会の目標は、そのような女性リーダーとそれに続く女性農業者を盛り上げ、共に成長してゆくことにあります。

実際の農業者を中心に、第一線の研究者、国を動かす行政者と共に議論し、具体的な方策を提言、発信、実施する。未来農業創造研究会はそのような行動力のある会を目指して活動しています。

未来農業 DAYS 資料

未来農業 DAYS で発表された事例紹介などは未来農業 DAYS ウェブページにてご覧いただけます。過去の発表なども振り返ることができますので、ぜひご覧ください。

未来
農業
DAYS



<https://www.mirainogyodays.org>

協賛

令和3年度農山漁村女性活躍表彰

アイアグリ株式会社 / 一般社団法人全国農協観光協会 / カネコ総業株式会社 / 株式会社カクイチ
株式会社ミズホ / 公益財団法人イオンワンパーセントクラス / 合同会社オクトリンク (五十音順)



一般社団法人 全国農協観光協会



KAKUICHI



第6回大地のカコンペ

イーサポートリンク株式会社 / イオンアグリ創造株式会社 / イオン九州株式会社 / 株式会社アグリインキュベーター
株式会社ドール / 株式会社ミームデザインズ / 住化農業資材株式会社 / 東京シティ青果株式会社
ネポン株式会社 / ベルグアース株式会社 / 有限会社妙義ナバファーム (五十音順)



イオンアグリ創造株式会社



イオン九州株式会社



住化農業資材株式会社

東京シティ青果株式会社



未来 農業 DAYs

未来農業 DAYs は、以下のご協力のもと
農業の楽しさを広げるために活動しています。

主催：未来農業 DAYs 実行委員会

共催：農山漁村男女共同参画推進協議会 & (一社) 未来農業創造研究会

後援：農林水産省

WEB サイトや SNS で発信していますので、是非御覧ください。

○未来農業 DAYs

Web: <https://www.mirainogyodays.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/mirainogyodays/>

○農山漁村男女共同参画推進協議会

Web: <https://www.nca.or.jp/support/farmers/common/>

○一般社団法人 未来農業創造研究会

Web: <http://awable.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/awable.org/>

□総合事務局□

一般社団法人 全国農業会議所 経営・人材対策部内